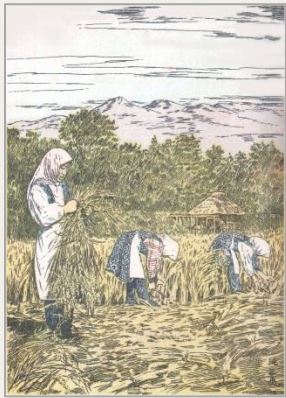


## 能田多代子と能田文庫



『村の女性』（能田多代子著 三国書房 1943）より、今純三による美しい扉絵

未だ女性の民俗学者が希有だった昭和十年代。民俗学に生涯を捧げることを決意した、一人の女性がいまいました。彼女の名は、能田多代子（旧姓：三浦たよ 1890-1969）。民俗研究家であった夫・能田太郎氏の方言採集などの研究を支えて続けていた多代子は、夫の死後も、一人で民俗学研究の道を歩む決意を固めます。その思いを、師事していた柳田国男に吐露した多代子。民俗学

研究を続けることの大変さをよく知っていた柳田は、女性一人での研究の苦勞を案じ、一度は反対しますが、多代子は一步も引きませんでした。むしろ、女性である自分ならではの研究を志そうとする多代子の熱意に動かされ、柳田は入門を許し、励ましたといひます。

多代子の研究は、自分の出身地である五戸を深く掘り下げる、ということに終始しました。その土地に根付く言葉、伝わる伝承、語り継がれる昔話…。それらを、丹念に、こつこつと聞き取り、記録し、まとめる…。「私の学問は、豆粒拾いのようなもの」という多代子の言葉どおり、地道で気の遠くなるような研究を、根気よく続けたのでした。

生粋の「記録者」だったので、多代子の研究は、『五戸の方言』、『村の女性』、『手つきり姉さま』など、故郷・五戸を愛し、ただひたすらに、一途に、そこに生きる市井の人々の営みを見つめ続けたのでした。

生涯をかけて収集した、民俗学関係史料2千点余は、「若き民俗学研究者が育ってほしい」、「青森県の人達に読んで欲しい」という多代子の想いから、昭和43年1月、青森県立図書館に寄贈されました。多代子の生涯と想いを、いつでも感じていただくことができるよう、現在も「能田文庫」として大切に保管しております。

## 記録の陰に仙人あり

「なめくじを 喰う男あり ぶな林」  
大町桂月がそう詠ったのは、「八甲田の仙人」と呼ばれた山の案内人、「鹿内辰五郎」です。

「おんぼろ軍服に勲章らしいものがびっしりぶら下がっている。明治の將軍の亡靈のような不思議な老人である。」と三浦雄一郎氏が述懐しているように、写真や人々の記憶に残る鹿内仙人の姿は、常に胸いっぱい勲章や登山客から贈られたバッジをつけた軍服を身につけ、喇叭と笛を携えているというものでした。

15歳から荷物の運搬夫として酸ヶ湯温泉に居し、以後亡くなるまで、常に八甲田山とともにあった鹿内仙人。明治35年の雪中行軍遭難の際には、捜索隊の案内人として活躍したこと。

高山植物研究家の郡場ふみ氏の案内をするうちに高山植物に詳しくなり、自らも高山植物の保護に携わったこと。八甲田や十和田湖の美しさを全国に知らしめた大町桂月の案内を4年間つとめたこと。「山仙鹿内辰五郎頌碑」を揮毫した棟方志功との絆…。多くの人たちが、八甲田山に関する事や思い出を語る時、そこには、必ずと言っていい程、仙人の名前を見ることが出来ます。

昭和40年、鹿内辰五郎翁は、天寿を全うし、本当の仙人になりました。人を愛し、自然を愛し、そして何より八甲田山を愛した仙人の純真な魂は、仙人を愛した多くの人達の心の中に生き続け、今でも八甲田の山々を自由に飛び回っていることなのでしょう。



八甲田の仙人・鹿内辰五郎翁の写真・部分（個人蔵）

## 記録者達の熱き眼差し



『青森県画譜』（今純三/著 東奥日報社 1973）より「郷土玩具図」（抜粋）

日本の銅版画の先駆者として、真摯に研究に打ち込んだ今純三（弘前出身 1893-1944）。

「郷土の自然と人に就いて其の真相を描写してひとつの纏まった画譜としたならば何等か世を、人を、益するものがあるのでは無かろうか」という考えから発行された『青森県画譜』は、純三自らが足を運び、県内の自然や風物を描いたもの。そこには、芸術家としての眼と、考現学を提唱した兄、和次郎の影響でしょうか、記録者としての熱い眼差しを垣間見ることが出来ます。美しいだけではなく、純三の願い通り、当時の青森県の活気や息吹を、今も我々に感じさせてくれる貴重で素晴らしい史料です。

## 青森県立図書館 参考郷土室

〒030-0184

青森市荒川字藤戸 119-7

電話：017-729-4311 / FAX：017-762-1757

http://www.plib.pref.aomori.lg.jp

## 青森県立図書館 参考郷土室

2015 夏

# 記録者達の熱き眼差し

## ～青森県のような記録者達～

挿図:「南嶋探検 丙式」(笹森儀助)より、与那国嶋に伝来の宝物の図

タイトル	著者・編集者	出版社	出版年	ラベルの記号	本の番号
陸羯南 道理と真情の新聞人	松田修一/著	東奥日報社	2015	289.1 ㌈㌈*㌈	10213943475
今和次郎と考現学 KAWADE道の手帖 暮らしの"今"をとらえた<目>と<手>		河出書房新社	2013	380.1 コソヅィ㌈	10214440134
平尾魯仙 青森のダ・ヴィンチ 青森県立郷土館開館40周年記念	青森県立郷土館/編	青森県立郷土館	2013	大型721.7 ヒヲオ*㌈	10215897691
生涯現役 波乱万丈の95年	盛田稔/著	文化出版	2012	郷土289.1 ヲ㌈タ*ミ	10213299964
小島一郎写真集成	小島一郎/著 青森県立美術館/監修	インスクリプト	2009	郷土748 コヅィ*㌈	10215565481
物売リスケッチ 季節の風物詩	山口晴温/著	北の街社	2006	郷土384.37 ヤマ㌈チ*㌈	10213201947
特別展 陸羯南から鎌田慧へ 青森県のジャーナリストの系譜	青森県近代文学館/編	青森県近代文学館	2004	郷土910.6 ア㌈㌈㌈㌈	10215175913
ヒコーキグラフィティ 1 青森県航空史 1910-1945	大柳繁造/著	ソフトウェイ	2003	郷土538 オ㌈ヤ㌈*㌈シ(1)	10212960865
地方紙の研究	鎌田慧/著	潮出版社	2002	070.21 カマタ*㌈	10212745905
青森20世紀の群像	東奥日報社/編	東奥日報社	2000	郷土281A トウ㌈ウ㌈	10213280661
新南嶋探検 笹森儀助と沖繩百年	琉球新報社/編集	琉球新報社	1999	219.9 ササ㌈リ*㌈	10212371234
ニュースステーション戦場記者の10年 テレビ国際報道・現場からの報告	川村晃司/著	全国朝日放送	1996	302 カム㌈*㌈	10215966441
八甲田・十和田 写真集	一戸義孝/写真	青森銀行	1996	郷土291A イチノハ*㌈	10211358666
あおもりシネマパラダイス	東奥日報社/[編]	東奥日報社	1996	郷土778 ア㌈㌈㌈㌈	10212902528
サワダ 沢田教一写真集 遺された30,000枚のネガから青森・ベトナム・カンボジア 流れる五戸川 上	沢田教一/[撮影] 鍵和田良輔・豊崎博光/編	くれせんと	1990	大型748 サワダ*㌈	10201396714
津軽口碑集	三浦栄一/著	五戸印刷	1982	郷土212A63 ミウ㌈*㌈(1)	10201127001
新聞記事に見る青森県日記百年史	内田邦彦/著	歴史図書社	1979	郷土382A ウチダ*㌈	10201037179
青森市町内盛衰記	武田三作/編	東奥日報社	1978	郷土212A01トウ㌈ウ㌈	10200141628
青森県画譜	肴倉弥八/著	歴史図書社	1976	郷土212A11 カナ㌈*㌈1976	10215527679
オモチャコ	今純三/著	東奥日報社	1973	郷土291A コソ*㌈	10215224395
砂子瀨物語 津軽の秘境・水没山村の民俗記録	北彰介/著	青森県児童文学研究会	1972	郷土384.5 ㌈タ*㌈	10201036197
村の女性 女性叢書	森山泰太郎/著	津軽書房	1968	郷土382A3 ヲ㌈ヤ㌈*㌈	10211582653
八甲田山 酸ヶ湯・猿倉・蕨温泉案内	能田多代子/著	三国書房	1943	384 ヲ㌈タ*㌈	10201480700
	鹿内辰五郎/著 柿崎新/編	鹿内辰五郎	1930	郷土291A シカ㌈イ*㌈	10215538781

こちらのサイトもおすすめです。

青森県近代文学館  
<http://www.plib.pref.aomori.lg.jp/top/museum/index.html>  
 青森県文化財保護協会  
<http://aomorikenbunkazai.jp/>

図書館2階に併設されている近代文学館のサイトです。「文学者達の群像」では、県ゆかりの作家とともに、能田多代子や今和次郎など、多分野の方々の足跡に触れることができます。必見!  
 『東奥文化』等の発行や、県内の歴史的史料の復刻をされている青森県文化財保護協会のサイトです。平成27年に創立六十周年を迎えました。創立時からの唯一の会員、盛田稔氏は生涯現役です!

※紹介している本は、多くの資料の一部です。お探しの資料が見つからない場合には、職員にお尋ねください。